

今回特集した「小浜ワークショップ」は約20年におよぶ私たちの地域活性に美術を生かした実績である。一過性のイベントで終わることなく継続することができたのは、利害関係なしに活動を支えてくれた「小浜ば花いっぱいにする」をはじめ、地元の方々と思いを共有することができたからだと思う。それは、現代美術という、美術は全ての人々の心であり、その共感と共に、その役割と使命を私たちは持ちながら、更には子どもたちがいつも主役であり、未来に向けて輝く子どもたちの明るい笑顔こそがアート表現の原動力だった。

もうひとつの特集「日韓中伯葡交流展 RING ART2014」では、私たちが井川研究室で現代美術の、美術の基礎力と分析力を学び、「地域」「国際」「平和」といった幅広い視野から美術の実践に取り組んできた成果を示している。

井川惺亮先生が長崎大学に赴任されてから30年の節目の年に開催した記念の展覧会でもある。井川研究室からRING ARTへと活動は受け継がれ、今もなお前進し続けている。

そして、昨年ご逝去された朴南姫先生への哀悼の意を表し特集記事とした。長崎大学の井川先生と共に30年以上に及ぶ慶北大学校との交流を支えていただいた功績は、未来につながる私たちの貴重な財産として今も輝き続けている。

井川先生は、小浜ワークショップについて「美術の役割は、私たちが住んでいる地域への文化的ボランティア活動とその精神活動になろう。私は長崎に来てから美術の活動を通していつも美術はボランティアであることを教えられている」と述べている。私たちは地元(地域)への愛情と人々の精神的な支えとなる美術を目指すという思いを胸に刻みながら、これからも新たな地平を切り開くアートを発信し続けていきたいと願っている。

(RING ARTパンフレット編集委員)



RING ART

2013 - 2016

RING ART 活動記録



RING ART 2013-2016

活動記録 vol.3

発行: RING ART 2017年2月

<http://www.ringart.jp>



公園という公共空間に色を付けることが画期的な出来事だった。「小浜ば花いっぱいにするうで」のご尽力により実現した。これまで井川研究室では、ペーロン資料館(1985年)、五島三井楽防波堤(1988年)といった公共の場所を作品化した実績があり、今回のような公共公園の遊具が現代アートの姿となり、子どもさんらは喜び、そして往来する人々の目を楽しませている。

「第14回秋の彩展」～公園を色でいっぱいにしてよう～小浜温泉公園 2009年

次頁はコンクリートブロックに着彩し、その後グループ毎にブロックを積み木のように組み立てて遊び、最後は渦巻きとなった。

「第3回 秋の彩展」～300個のブロックに色をつけよう!そして、遊ぼう!～小浜マリンパーク 1998年



小浜ワークショップ年表

（寄稿） 小浜20年の活動を振り返って 城谷雅司

- 1997年 「第2回 秋の彩展」
～さりげなくアートすうで～(絵画展)小浜温泉街
- 1998年 「第3回 秋の彩展」(第1回ワークショップ)
～300個のブロックに色をつけよう!そして、遊ぼう!～
小浜マリナパーク
- 1999年 「第4回 秋の彩展」(第2回ワークショップ)
～巨大折り紙を使ったワークショップ～小浜町立体育館
- 2001年 「第6回 秋の彩展」(第3回ワークショップ)
～小浜ば風景いっぱいにするうで～ 小浜小学校
- 2002年 「第7回 秋の彩展」(第4回ワークショップ)
～子どもはアート・Tシャツで花いっぱい～
小浜温泉街ポケットパーク
- 2003年 「第8回 秋の彩展」(第5回ワークショップ)
～Tシャツに色をつけて遊ぼう～
小浜温泉街ポケットパーク
- 2004年 「第9回 秋の彩展」(第6回ワークショップ)
～そいなら絵ば描こうか～ 小浜小学校グラウンド
- 2005年 「第10回 秋の彩展」(第7回ワークショップ)
～傘で花いっぱいにするうで～ 小浜小学校グラウンド
次頁写真⑦
- 2006年 「第11回 秋の彩展」(第8回ワークショップ)
～オリジナルのぼうしをつくらう～ 小浜町南公民館
- 2007年 「第12回 秋の彩展」(第9回ワークショップ)
～オリジナルエコバッグをつくらう～小浜町南公民館
次頁写真⑧
- 2008年 「第13回 秋の彩展」(第10回ワークショップ)
～オリジナルエコバッグをつくらう～ 小浜歴史資料館
- 2009年 「第14回 秋の彩展」(第11回ワークショップ)
～公園を色でいっぱいにするう～ 小浜温泉公園
次頁写真⑨⑩
- 2010年 「第15回 秋の彩展」(第12回ワークショップ)
～アートピクニック・スケッチ大会～ 小浜温泉公園
- 2011年 「第16回 秋の彩展」(第13回ワークショップ)
～うちわに色をぬろう!シャボン玉で絵を描こう!～
小浜温泉公園 次頁写真⑪
- 2012年 「第17回 秋の彩展」(第14回ワークショップ)
～わたしたち、ぼくたちの小浜風景を描こう～
小浜温泉公園 次頁写真⑫
- 2013年 「第18回 秋の彩展」(第15回ワークショップ)
～湯けむりアートを楽しもう!～小浜マリナパーク 次頁写真⑬
- 2014年 「第19回 秋の彩展」(第16回ワークショップ)
～湯けむりの風景と遊ぼう!～ 小浜マリナパーク 次頁写真⑭
- 2015年 「第20回 秋の彩展」(第17回ワークショップ)
～小浜温泉公園の遊具を描こう～ 小浜温泉公園 次頁写真⑮
- 2016年 「第21回 秋の彩展」(第18回ワークショップ)
～世代を超えたお絵かきワークショップ～
にこにこふれあいハウス

約20年前、10年ぶりに故郷の小浜町に戻り稼業に従事していた私は、当時普賢岳の噴火の影響などで衰退していた小浜温泉のために自分たちができるところをやらうと思、「小浜ば花いっぱいにするうで」という街に花を植えたり地域のイベントを主催したりする会をつくり、様々な活動をしていました。ある日知人の建築家の紹介で、住宅の新築工事の現場を見学に行ったところ、そこでお会いしたのは井川先生でした。そこで、当時取り組んでいたイベントなどの話をする中で、「ぜひ一緒にやりましょう」というお言葉をいただき、その数か月後には約100名の地元の子供たちを集め「第3回秋の採展～300個のブロックに色をつけよう!～」を開催しました。

近年アートや建築を地域活性化や観光の目玉にしようと様々な芸術祭が開かれています。私たちのイベントがこれらのイベントと大きく違うのは、自治体などの支援を受けていないため、予算やイベントのノウハウがないこと、主催者である私たちに現代美術に対する認識が全くないことでした。そういった状況にもかかわらず、井川先生、リングアート、井川研究室の生徒の皆さんは、当時聞いたこともないワークショップや商店街でのシャッターペイント、温泉公園の遊具の着色など、アートを使ったまちおこしの企画を次々とご提案いただき実行していただきました。正直私たちはイベントの主催というよりも協力者という感じでした。多くの子供たちがこれらのイベントに参加し、美術の楽しさを体感し、小浜の子どもであることに喜びを感じてもらえたと思います。

私自身国際的な視野で現代美術に取り組みながら、学内や業界の評価に一切つながらず、地域での活動に積極的に関わっていく井川先生や研究室、リングアートの皆さまの姿勢に影響を受けてきました。初期のワークショップに参加した子供たちは成人し、その子供たちが参加する日も近いほど回数年月を重ねてきました。井川先生やリングアートの皆さまのご負担にならないのであれば、1年でも長くワークショップを続けていきたいとかがえています。「小浜ば花いっぱいにするうで」代表



⑭城谷雅司氏(写真左側) 2014年
 ⑮長崎新聞(2005年11月26日付)
 ⑯長崎新聞(2003年11月26日付)
 ⑰長崎新聞(2009年10月27日付)
 ⑱広報うんぜん(12月号)表紙

⑲1998年 「第3回 秋の彩展」～300個のブロックに色をつけよう!そして、遊ぼう!～
 ⑳1999年 「第4回 秋の彩展」～巨大折り紙を使ったワークショップ～
 ㉑2003年 「第8回 秋の彩展」～Tシャツに色をつけて遊ぼう～
 ㉒2004年 「第9回 秋の彩展」～そいなら絵ば描こうか～
 ㉓2008年 「第13回 秋の彩展」～オリジナルエコバッグをつくらう～
 ㉔2009年 「第14回 秋の彩展」～公園を色でいっぱいにするう～

日韓中伯葡交流現代美術展 2014

2014年12月23日（火祝）～28日（日）

長崎県美術館 県民ギャラリーC室

主催：RING ART 協力：長崎大学 産学官連携戦略本部 人材育成部門 生涯教育室

RING ARTの前身である長崎大学井川研究室の始まりから30年を迎え、企画された展覧会。卒業生にも出品を呼びかけて多くの参加者が集まった。



鐘 孺乾 (招待作家)



姜 パレム (招待作家)



朴 南姫 (招待作家)



金 在寛 (招待作家)



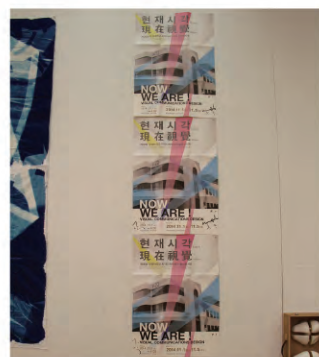
Francisco Laranjo (招待作家)



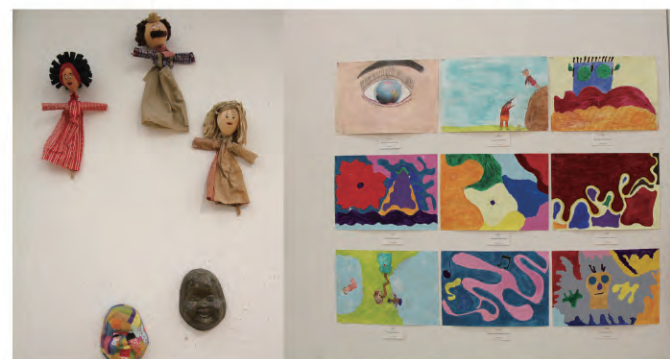
古本 元治 (特別出品)



田中 睦治 (特別出品)



洪 東植



Ivonete Cavalcanteとブラジルの子どもたち (特別出品)



関 淳一 (特別出品)



福岡 奉彦 (特別出品)



入江 一樹



北野 竹子



松尾 桂子



金子 衛



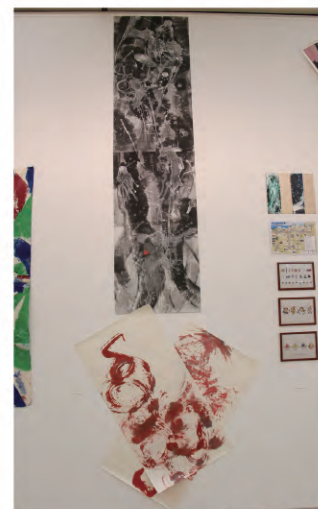
重野 裕美



菅波 優子



田熊 沙織



永田 典子



増田 和剛



兵庫 由紀子

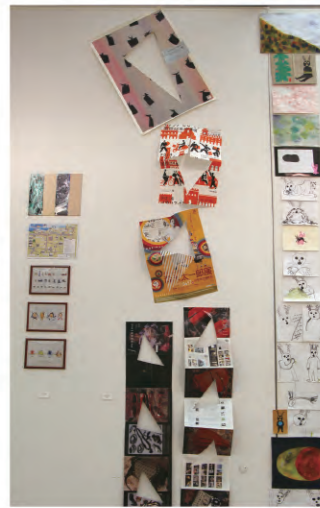


辻村 涼子

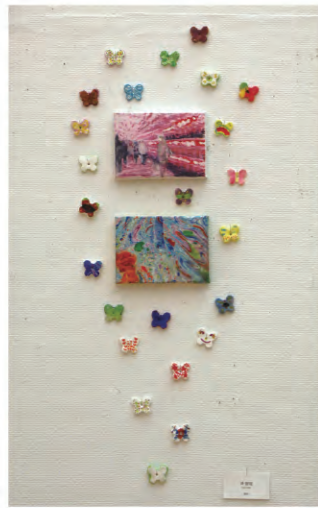


藤上 慶





前田 真希



尹 智珉



浦川晏都古



李 正喜



井ノ上 理恵



岩永 見典



小栗栖まり子



佐藤 千代子



中田 寛昭



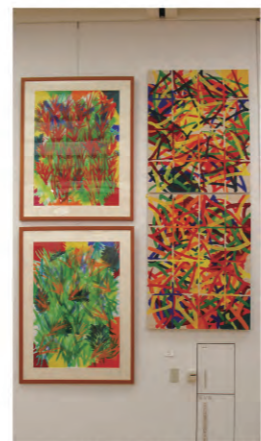
野坂 知布



波多野 慎二



廣岩 裕香



井川 惺亮(特別出品)

〈関連イベント〉

12月23日 (火祝)

◎オープニング・セレモニー

◎講演会「地方における現代美術の現在とこれから」

講師：宮田徹也氏 (日本近代美術思想史研究)

12月27日 (土)

◎ワークショップ

「いっしょに・えがいて・つくって・あそぼう」

協力：NPO法人 Tsunagu family

12月28日 (日)

◎記念講演会「長崎でなぜ絵を描くのか」

講師：井川惺亮氏 (長崎大学名誉教授)

◎ギャラリートーク



講演会

評論家でもある宮田氏をお迎えし、現代アートを取り巻く様々な現状、また長崎だけでなく他県の例も交えつつ、地方と現代美術についてお話いただいた。



記念講演会

記念講演会では、30年間の長崎での現代美術活動を井川氏が語った。ギャラリートークではそれぞれの作品について活発な意見交換が行われた。

讃：朴南姫 慶北大学名誉教授
—追悼— (1952-2016)

〈朴南姫 プロフィール〉

韓国・慶北清道出身 ソウル大学美術学部絵画科、同大学院卒・フランスツールーズ第2大学美術史学科卒：美術史学博士・慶北大学芸術学部美術学科教授(1982-2016)

個展

- | | |
|----------------------------|-------------------------------|
| 1982年 在韓フランス文化院展示室(ソウル) | 2008年 ロシアモスクワ美術協会長賞受賞 |
| 1987年 田村画廊(東京) | 2012年 オーストラリア USC大学ギャラリー |
| 1996年 Berlin Ro Gallery | 2015年 定年退官記念展 大邱文化芸術会館 |
| 2003年 ナジュウ文化芸術会館(韓国) | 韓日大学交流展 長崎大学・慶北大学校(1988~2005) |
| 2008年 Gallery Athena Paris | 両大学の国際交流は昨夏まで続いた。 |



慶北大学校退官記念展2015



ホルト大学2013

ホルト大学にて講演2013



長崎大学と交流1988

「人を育てる国際交流」

お世辞は嫌いだ。誰かを想って書いた文章を読むと、いつもそんな気にさせられる。朴先生は国際交流に力を注いでおられた。私が長崎大学に留学できたのも朴先生のおかげである。私が朴先生に学んだことの一つは、国際的な感覚である。すなわち、相手国に対する敬愛と人の長所や短所を素直に受け入れる大らかな心構えである。いつも朴先生は人のことを良く言っていた。実際、先生から人の悪口を聞いたことがない。いつも朴先生の優しさが溢れていた。今の私にできることは、朴先生のような人間になれるように精一杯頑張ることであり、「もっと留学の成果を発揮して偉くなれよ」とのお言葉が聴こえてくる。

申 京愛 (長崎大学大学院2003年修了)

「苦難を乗り越えて、国際交流」

80年代後半になっても「国際化」という言葉は実践的に難しい中にあり、とりわけ韓国は大変な状況であったと思う。それを朴南姫先生は、「当時学科長として、また女性として何ができるか」を井川先生に託した。

報道では、「海を越えて文化交流」と報じられていたほどで、朴先生の困難に立ち向かう努力に支えられ、数十年の信頼を分かち合うことができた。まさに「継続は力なり」で、今でも朴先生との心の交流は続いている。

2013 - 2016 RING ART 活動記録

◎2013 昌原大学校新築図書館開館記念「国際交流芸術祭」
会期：2013年7月13日(土)～20日(土)
会場：昌原大学校図書館 他3カ所

2012年に開館した昌原大学校図書館を記念した行事として中国、日本、韓国、ドイツ、ポルトガルの教授、学生たちが参加した文化交流行事。



◎長崎大航海時代展(現代美術)2013

会期：2013年4月1日(月)～5月6日(月)
会場：長崎大学附属図書館中央図書館1Fギャラリー

◎長大へ戻って来た留学生・展(現代美術)2013

会期：2013年8月27日(火)～9月30日(月)
会場：長崎大学附属図書館中央図書館1Fギャラリー

長崎大学図書館のリニューアルに伴い、ギャラリーが新設された記念として、井川氏にその第一号を飾る企画展の依頼があった。井川氏は「かつてお寺が果たした国際交流の場を、現代担っているのは図書館である」と捉え、図書館を昔のお寺に見立てて上記二つの展覧会を提案。これからの大学が担うべきである、卒業生を対象とした継続型教育の実例としつつ、現代美術ならではの発想を示した。



長崎大航海時代展(現代美術)2013 長大へ戻って来た留学生・展(現代美術)2013

◎平和展8+9・折り鶴パフォーマンス(2013～2016)

〈パフォーマンス〉
実施日：8月9日(2013～2016)
会場：長崎を最後の被爆地とする“誓いの火”灯台モニュメント
〈展覧会〉

- ・会期：2013年7月21日(日)～27日(土)
会場：長崎ブリックホール
- ・会期：2014年7月20日(日)～26日(土)
会場：長崎ブリックホール
- ・会期2015年7月7日(火)～8月30日(日)
会場：長崎歴史文化博物館 他5カ所
- ・会期2016年8月3日(水)～9月11日(日)
会場：長崎歴史文化博物館 他3カ所



折鶴パフォーマンス 2014

毎年8月9日に実施される折り鶴パフォーマンスは、平和を思う世界の人々と共に鶴を折り、灯台を飾るというパフォーマンスである。2015年は、被爆70年の節目を迎え、また東日本大震災による被曝問題に苦しめられている福島作家にも参加していただいた。近年その平和の輪は更に広がり続けている。

一連のパフォーマンスは、鎮魂と祈りを世界に発信する世界的な芸術活動として位置付けている。

◎海物の山口恭弘とRING ART—美における芸術との共演—

会期：2014年1月6日(月)～31日(金)
会場：長崎大学附属図書館ギャラリー

生命の根源である海と向き合う水産学と芸術とのコラボレーション企画。長崎大学山口恭弘教授(水産学博士)とRING ARTの命の尊さ比べとなった。



◎春風ながさきより(XVI2014～XVIII2016)

- ・会期：2014年1月19日(日)～25(土)
会場：長崎ブリックホール2Fギャラリー
- ・会期：2015年3月22日(日)～28(土)
会場：長崎県美術館運河ギャラリー
- ・会期：2016年2月22日(月)～27(土)
会場：長崎ブリックホール2Fギャラリー



春風ながさきよりXVII2015

本展は3.11直後、ポルト大学ラランジョ教授の勇気ある来日に、国際交流の有り難さや優しさなどを得た。やはり現代美術の活動ならではの成果といえよう。

◎対話する風土 2014 韓日新世代展

会期：2014年7月16日(水)～8月31日(日)
会場：シェマアートミュージアム(韓国・清州)

清州ASPECT主催によるRING ARTとの初の合同展。シェマ美術館館長は金在寛氏であり、現代美術を紹介する美術館である。



◎田人ART MEETING(2014～2016)

会期：2014年8月2日(土)～8月24日(日)
会期：2015年8月2日(日)※ワークショップのみ
会期：2016年7月30日(土)～8月20日(土)
会場：田人第二小学校南大平分校他・福島県

東日本大震災に見舞われた福島県田人町の雄大な自然の中で行われたアートイベント。メンバー数名が出品した他、現地の小学生から大人まで幅広い年齢層が参加してのワークショップも行った。



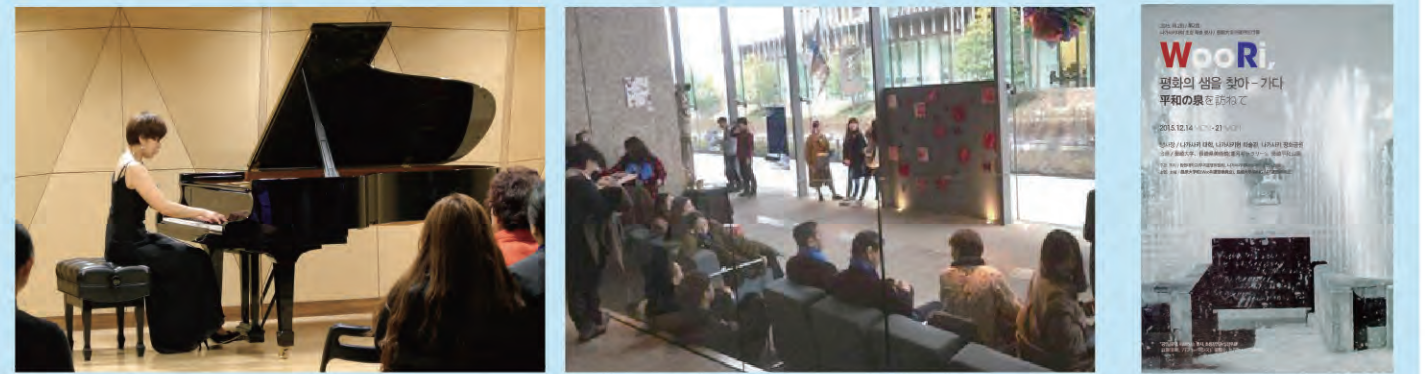
〈DM・チラシ〉



WooRi 平和の泉を訪ねて

WooRiは、韓国・昌原大学校芸術大学 姜バレム教授を中心とした、教授、学生などからなるアーティストグループ。2014年発足しアートを通じた平和活動を行い、米国で評価を受けた。2015年、長崎被爆70年の地を訪れ、RING ARTとのコラボレーションにより、アートが平和と人々との交流に役立ったことを実証した。特に昌原大学校 李宙根教授によるBeethoven「Piano Sonata No.8」などのピアノ演奏は長崎の爆心地まで響き、忘れられない平和のメロディとなった。

〈美術展〉
会期：12月15日(火)～19日(土)
会場：長崎県美術館運河ギャラリー
12月15日(火)パフォーマンス・オープニング
12月19日(土)ギャラリートーク
〈セミナーと音楽会〉
日時：12月18日(金)
会場：長崎大学産学官連携戦略本部
セミナー室及び教育学部音楽堂



〈報道記録〉

- 2014.1.21 長崎新聞 春風ながさきより XVI
- 2014.7.21 長崎新聞 8+9 2014
- 2014.7.25 朝日新聞 8+9 2014
- 2014.12.24 長崎新聞 RING ART 2014
—日韓中伯葡交流現代美術展—
- 2015.3.23 長崎新聞 春風ながさきより XVII
- 2016.2.24 長崎新聞 春風ながさきより XVIII
- 2016.8.8 長崎新聞 8+9現代美術展
…など他多数



RING ARTでは、これまで継続して展覧会報告書を作成してきたが、本誌では2013年夏から2016年までの活動、及びこれまでの未収録であった展覧会以外の活動もまとめています。なお、2014年被爆70年、そしてその翌年に開催した平和展はそれぞれ単独にパンフレットとして発行している。
〈編集委員〉中田寛昭・前田真希・守屋 聡・廣岩裕香・野坂知布・波多野慎二